

### 3. 1.5T における可変フリップ角を用いた頭部造影 3D-TSET1WI の有用性

北見赤十字病院 ○大友 厚志、佐藤 裕樹、菅野 裕幸

#### 【目的】

頭部の造影 3D-TSET1WI は、GRE の T1WI に比べ Black Blood となりやすく、転移性脳腫瘍と微小血管との鑑別に臨床的有用性が高い。さらに可変フリップ角を利用した MSK View 法は検査目的部位に応じた組織間コントラストが高く VISTA (Volume Isotropic TSE Acquisition) よりも高い検出を期待できる。また、ADE (Anti-driven equilibrium) を併用すれば T1 コントラストを強調することができるという報告がある。そこで、頭部造影後を想定し MSK View 法と VISTA の T1 コントラストの比較を行った。また、ADE を併用の有無についての T1 コントラストの比較も行った。

#### 【方法】

Philips 社製 Multiva1.5T を使用し、撮像対象には脳実質、転移性脳腫瘍それぞれの T1 値に近い値をもつ Gd 希釈造影剤を用いて CNR、SNR の比較を行った。

#### 【結果】

MSK-View 法では VISTA に比較して CNR、SNR ともに高い結果となった。  
また ADE を用いることにより高い CNR を得る事ができた。

#### 【考察】

頭部造影における ADE を用いた MSK-View 法は、コントラストが高く、微小な転移性脳腫瘍の検出に有用であると示唆された。